

令和3年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について

1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、日上市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検及び評価し、教育行政の課題や取組の方向性を明らかにし効果的な教育行政の推進に資するとともに、その結果を公表し市民への説明責任を果たしていくことを目的とする。

2 対象

令和2年度に、教育委員会が管理及び執行した事務を点検及び評価の対象とする。

3 実施方法

(1) 内部評価

日上市教育振興基本計画の特徴である「未来を拓くプロジェクト」及び「ひたちらしさを活かした取組」を8つの施策として位置付けて、施策の取組内容、課題及び今後の方向をまとめた施策評価調書を作成する。

(2) 外部評価

施策評価調書の各施策等について、教育行政点検評価委員の評価及び意見を得る。

4 教育行政点検評価委員（順不同、敬称略）

氏 名	所 属 等
柴 田 彪	元学校長
飛 田 隆	日上市社会教育委員
金丸 さつき	日上市立小・中学校 PTA 連合会

5 今後の取組

点検評価委員からの意見を基にフィードバックを行い、今後の施策の検討を進めて、将来を担う人材を育成するとともに、豊かな文化を育む教育行政の推進に努める。

6 点検及び評価の概要 別紙のとおり

7 報 告 書 別冊のとおり

令和3年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の概要（対象年度：令和2年度）

1 各施策に対する内部評価及び外部評価

未来を拓くプロジェクト			
施策名	取組の内容	内部評価【取組の成果（抜粋）】	外部評価【点検評価委員からの意見（抜粋）】
① 確かな学力の育成	ア 確かな学力の育成 イ 新学習指導要領による授業の実践 ウ 小中連携・一貫教育の推進 エ 情報活用能力の育成 オ 英語教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 若手教員（初任者）を対象とした研修会を実施し、初任者同士の連携を深めることや、教員としての基本的な資質や使命感を養うことができた。また、研修会の中で、教育長、教育委員、教育部長を交えた情報交換会を実施したことにより、課題解決への意欲の向上を図ることができた。 I C T教材を効果的に活用することで、児童生徒同士による意見交換の場を授業に取り入れる等、主体的な学びの充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 若手教員（初任者）の研修会で資質面、技術面など、大きな成果が上げられたと思われる。しかし、若手教員に対する指導層（中堅教員）の減少と中堅教員の経験不足等からくる力量の低下がみられるため、年齢層、経験年数に応じた年次研修が今後望まれる。 児童生徒1人1台のタブレット端末が配布され、有効活用が期待されることは良いことだが、同時に実際の体験についても考えなければならないと思う。
② 教育環境の向上	ア 学校施設の整備 イ 学校運営協議会制度の推進 ウ 学校再編 エ 教職員の働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の全校設置（令和2年度）を通して、学校、保護者、地域それぞれが責任を持って教育活動・学校運営に携わろうとする意識が高まった。 学校再編計画（素案）に関するパブリックコメント及び住民説明会等を通して、学校再編計画の基本的な考え方の周知を図るとともに、広く意見を聴取することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の活動は、地域、学校間にかかなりの温度差が見られると思う。それぞれの関係機関の担当範囲を十分に連携・協働して取り組んでほしい。併せて地域連携コーディネーターの適切な人的配置等を検討すべきである。 学校再編計画に関しては保護者の関心も高く理解度が高いように感じる。引き続き積極的な周知活動を行い、丁寧な対応をお願いしたい。
③ 放課後や休日の活動環境の充実	ア 放課後子ども教室の推進 イ 放課後児童クラブの推進 ウ 子どもの地域活動への参加推進	<ul style="list-style-type: none"> 放課後子ども教室について、3校に新規教室を開設し、計8校で教室を実施したことにより、子どもたちが安心して過ごすことのできる居場所を拡充することができた。 放課後児童クラブについては、7校でクラブ室を拡充したことにより、入所希望者の受入数を増やすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後子ども教室の推進については今後も進めていきたいと考えるが、同時に多様な放課後の活用も考える必要があるのではないかと感じる。 放課後子ども教室については、地域によって差があるが、認知されつつあり様々な行事を楽しみにしているという声が聞かれる。 放課後児童クラブについては、非常に柔軟な対応をいただいていると感じる。
④ 文化財の活用	ア 文化財の保存と活用の推進 イ 日立風流物展示施設等の検討 ウ 長者山遺跡の活用	<ul style="list-style-type: none"> 学校の団体見学対応や、所蔵資料・文化財を活用した出前授業等を実施した。また、文化財に関わる社会科自由研究の支援を行った。 長者山遺跡保存活用計画策定委員会において、「長者山遺跡保存活用計画」を策定するための整備検討を行った。また、長者山遺跡に関するガイドツアーを実施し、遺跡の説明・案内板等を設置した。 	<ul style="list-style-type: none"> リニューアルされたシビックセンター科学館に、郷土博物館が提供した地質に関する展示物があり、子どもたちが大きな興味を示しており、私自身も非常に面白いと感じた。文化的な要素も含め、多面的な捉え方のできる切り口での展示に期待したい。 長者山遺跡保存活用の充実は、これからの大きな事業課題であろうと思う。利便性や周辺の安全確保からも、より一層の施策が必要であろうと考える。
⑤ スポーツの振興	ア 市民運動公園、スポーツ広場等の施設整備推進 イ スポーツ合宿の誘致推進 ウ スポーツに関する情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ施設の利便性の向上と有効活用を図るため、スポーツ施設整備計画を策定した。 コロナ禍において、スポーツ・ツーリズムを推進していくための方策等について、関係課所及び宿泊施設等関係団体と検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ施設の整備は、市民が楽しく快適に充実したスポーツライフをするために直結するものであると考える。整備等の予算を十分に踏まえた中・短期的で実行可能な整備計画を期待したい。 新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けて、中止になる大会も多く、対応も大変な年だったと思う。その中でも少しずつ行事を実施していただいたことは、この状況の中で暮らす子どもたちにとって希望になったと思う。感謝したい。
「ひたちらしさ」を活かした取組			
施策名	取組の内容	内部評価【取組の成果（抜粋）】	外部評価【点検評価委員からの意見（抜粋）】
⑥ 未来を拓く力を育む学校教育	ア 科学学習の推進 イ 未来パスポートの活用 ウ 教育環境の充実 エ ランドセル及びスクールカバンの贈呈 オ 学校給食の充実	<ul style="list-style-type: none"> 日立理科クラブの授業支援や、小学校全校に配置した「理科室のおじさん」の授業支援等により、各小・中学校の児童生徒の理科、科学に関する知識を深めることができた。 少人数指導教員の配置により、一人一人の学習のつまずきや登校渋り、いじめ等に対し、早期発見・早期対応を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 科学学習の推進は、日立の特色ある日立らしい先進的な取組であると思う。更に充実したものにするため、人材育成・確保など、施策の充実を望みたい。 少人数指導教員の配置については今後も推進していただきたいと考える。子ども一人一人に対する、丁寧な学習支援や生活支援等を行うために、少人数指導教員の配置は、ますます大切になると思う。
⑦ 生きがいや喜びを見出す生涯学習	ア 職業探検少年団への支援 イ ラジオ体操の普及推進 ウ ひたち生き生き百年塾の活動推進 エ 移動図書館車の運行	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の一つとして、子どもたちが将来への夢を持ち、自立していくことを目的とした職業探検少年団の運営を支援することができた。 健康づくりや生活習慣づくり、多世代交流の機会としても効果の高いラジオ体操を、郷土の宝として啓発するとともに、新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大する中、市民の外出自粛による運動不足解消と健康増進の効果が期待できるラジオ体操の普及を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 職業探検少年団の事務局の負担は大変だと思うが、このような取組はユニークで貴重な体験になると思うので今後も推進していただきたい。 市内子ども会の減少により、子どもたちがラジオ体操に、参加する機会が減少していると感じる。補完するような取組について具体的な検討も必要なのではないかと感じる。
⑧ 健康と活力を生み出すスポーツ	ア 池の川さくらアリーナの活用推進 イ 日立さくらロードレースの開催 ウ スポーツ少年団の活動支援、指導者育成	<ul style="list-style-type: none"> 競技団体や指定管理者等と連携を図り、国内トップレベルの試合・大会、文化イベント等を誘致し、国内トップレベルのスポーツ試合が開催された。 主催者であるの日立市体育協会と新型コロナウイルス感染症対策を行いながらのさくらロードレース開催について、調査・検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 一流の選手を迎えてのイベントもスポーツを始めるきっかけになるものと考えられるので、そのような企画も引き続き推進していただきたい。 日立さくらロードレースは、「ひたちらしさ」の象徴のような行事の一つなので、中止は非常に残念だったが、判断は理解できた。次回開催されれば子どもたちにとっても大きな希望になると思う。

2 報告書全体に対する意見

柴田 彪 委員 <元学校長>

- ① 高い水準の豊かな教育を実現するためには、教育職に魅力を感じ、総合的な人間力にあふれた、意欲と情熱をもった優秀な教員の育成が求められる。昨今の教育現場では、若手教員に対して、中堅教員が果たす適切な指導・助言等が不十分であると聞くので、指導的立場の中堅教員の育成と人的確保が必要だと思う。初任者研修と並行して中堅教員の研修を期待したい。
- ② “確かな学び、豊かな心、健やかな身体を育む教育”の基盤は学校であり、本市が目指す子どもの姿「ひたちっ子」の具現化の場所でもある。学校再編の実現には、通学問題や保護者の負担、地域伝統の継承、地域特有の“しがらみ”など課題が山積しているが、子どもの学びの保障のためにも、十分な議論を重ね、「子どものため」を念頭に納得のいく取組を期待したい。

飛田 隆 委員 <日立市社会教育委員>

- ① 文化財の活用やスポーツの振興については、コロナ感染症の影響を強く受けたと推察するが、その中でも長者山遺跡に関する新たな取組やスポーツ施設の更衣室・トイレの改築等を通して利用環境の向上の取組がされており、更にスポーツ競技大会で優秀な成績を収めた選手等を称える等、市民への広報にも取り組まれている。
- ② 「ひたちらしさを活かした取組」では、ラジオ体操の取組、移動図書館の活用促進、職業探検少年団の取組等が推進されているが、特に幼児の本との出会いは大切で、その後の学び、幅広い知識を獲得する機会にもなるので、今後とも推進していただきたい。

金丸 さつき 委員 <日立市立小・中学校PTA連合会>

- ① 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による休校があったが、その休校期間中も学習の補完のために、各学校で趣向を凝らした取組（段階的な学習教材の配布、定期的な学習チェックなど）がなされたと感じている。家庭学習のためのさまざまなサポートに感謝したい。
- ② タブレット端末の整備の前倒しを含め、児童・生徒一人一人へのアクリル板の設置、水道蛇口をレバー式に交換、飲料水やブランケットの配布、運動会の分散実施（学校ごとに異なるが）など、ここでは列挙できない小さな取組を含め、「今できることを」、「スピード感を持って」1つずつ積み重ねるように取り組んで頂いた。この熱意を持った取組の姿こそが、「ひたちらしさ」なのではないかと感じた。